

# イネ科メモ(2)

藤本義昭

前号で“イネ科トピック”と標題をしたが、ここに書いたものはトピックといえるようなことでなく、筆者のメモにすぎない。したがって本号よりイネ科メモと改題することにした。

## 17. コバンソウ *Briza maxima* L. とヒメコバンソウ *B. minor* L.

コバンソウ、ヒメコバンソウともにヨーロッパの暖地原産の1年生の帰化植物で、とくにヒメコバンソウは本邦の各地に野生しているのがみられる。花がちょうど小判のような形をしていることから、このような和名がついたものであろう。

この両者のちがいは

- A 小穂は巾10mm, 小舌薄膜質, 嚙形……………コバンソウ
- A 小穂の巾4mm, 小舌薄膜質, 鋭形, 頸帯部左右著しく不相称……………ヒメコバンソウ

コバンソウは種をまいておくだけで、特に手入れをしなくても初夏には花が咲くので栽培が容易である。また、そのまま乾燥して瓶に挿しておくだけでも結構美しい。Fig. 8

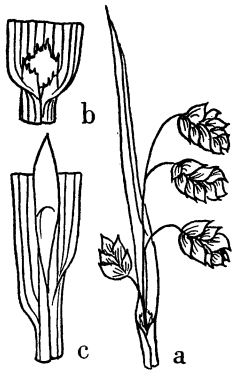


Fig. 8.

- a コバンソウの花
- b コバンソウの小舌
- c ヒメコバンソウの小舌

なお、スズメノテッポウによく似たものにセトガヤ *A. japonicus* Steud. があるが、これは芒があり、葯が白色なので注意すれば区別される。

## 19. チガヤ *Imperata cylindrica* P. Beauv. var. *Koenigi* (Retz.) Durand et Schinz

陽地の草原や畦などに生える多年生草本で、地下茎があり、これで繁殖する。たいていのイネ科植物のおしべは3本であるが、チガヤのおしべは2本である。また台湾産のオオチガヤは1本である。

本邦に普通にみられるチガヤは、柱頭が黄褐色で節に毛があって、ケチガヤともいわれる。そのほかに柱頭が白色か、または淡緑色で節に毛のないシロチガヤ、さらに柱頭が褐色で節に毛のないカワラチガヤが区別されている。

## 20. 夏休みの作品展から

筆者の勤務校の1年の生徒に50種の腊葉標本を作るよう宿題をだしたところ、次のようなイネ科植物がみられた。

コバンソウ、ヒメコバンソウ、イヌムギ、スズメノチャヒキ、ナギナタガヤ、カナリークサヨシ、イヌビエ、アキノエノコログサ、キンエノコロ、ムラサキエノコロ、カモジグサ、アオカモジグサ、ウシノケグサ、オヒジワ、アキノメヒジワ、メヒジワ、ギョウギンバ、ニワホコリ、スズメノカタビラ、シバ、スズメノテッポウ、スマガヤ、カリマタガヤ、ヒエガエリ、クサヨシ、ミゾイチゴツナギなどで、50種のうち平均1人が3~5種のイネ科植物をとっていた。各自の採集品については統計をとってみたいと思い目下整理中である。

## 21. トウモロコシの小舌の形式

トウモロコシの小舌は、成長したものでは膜質、縁辺不齊歯牙状である。この小舌の形成される時期や起源をさぐるために、発芽したばかりの芽をナワシンで固定し、連続切片を作り、デラフィールド、ヘマトキシリンで染色して調べてみた。観察結果からみて、小舌は成長点より第4葉目の内側葉の内側の表皮細胞から分化しはじめていたことがわかった。Fig. 9

## 22. 雑草

雑草にはいろいろとむずかしい定義もあるが、一般には“名もなき雑草”で表現されるように、私たちのほうが名前のわからない草を雑草といっているように思われる。したがって実物と名前を知らない者ほど雑草が多いということになる。

ところで雑草にもいろいろ定義があるが“人間が作物を栽培する立地にこのんで生育する草、つまり人間の手の加わった半自然的な条件下でよく育つもの”を“雑

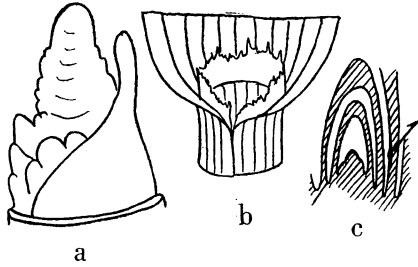


Fig. 9.

- a トウモロコシの成長点
- b トウモロコシの小舌
- c 成長点縦断面
- d 小舌形成部を示す
- e 小舌縦断面

草”といえよう。つまり“畑地などに生え、作物の生育をさまたげる草”が雑草となる。

こうした意味での雑草には多くの種類があり、笠原\*によれば日本の畑地では41科157種、水田では24科67種といわれる。そしてこれらの多くの種類のうちでも日本固有のものとしては、畑地ではネザサ類、水田ではアギナンのみで、他は外国との共通種であると指摘している。このようなことは非常に興味深い。

23. ヒエガエリ *Polypogon fugax* Steudel と  
ハマヒエガエリ *P. monspeliensis* Desf

ヒエガエリとハマヒエガエリは、前者の芒が穎と同長、またはそれより短かく、後者の芒は穎の数倍の長さがある。このほかハマヒエガエリの花序が密につまみついていて、花時には明らかに区別することができる。しかし生活形の小舌部では区別がつかない。すなわち小舌は膜質、不斉歯状、4~8mm、背面に刺細胞がならぶ。葉身も巾、長さとも同じであり、表の脈上に刺細胞があるこれらの区別については解剖学的性質を調べてみたい。Fig. 10.

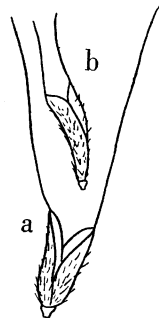


Fig. 10

- a ハマヒエガエリの小穂
- b ヒエガエリ的小穂

24. 兵庫県下にみられるスズメノチャヒキ属

*Bromus* L.

兵庫県下にはイヌムギ、スズメノチャヒキ、キツネガヤ、ヒゲナガスズメノチャヒキの4種がふつうにみられ

る。いずれも葉鞘は円筒状であり、葉身、葉鞘ともに毛が多い。

- A 小耳あり……………キツネガヤ
- A 小耳なし
- B 小舌3~5mm……………イヌムギ
- B 小舌1~2mm
- C 軟毛を葉身、葉鞘に密生……………スズメノチャヒキ
- C 有疣軟毛を葉身、葉鞘に密生……………ヒゲナガスズメノチャヒキ

25. ヨシ *Phragmites communis* Trinius

日当りのよい湿地や池の周辺に、また浅い池では一面に生えているのがヨシで、葉身は中程より下垂しているのて遠くからでも明らかに区別される。風の強い所では葉身が一方に、つまり風下側に片よるのでカタハノヨシといわれたりすることもある。ヨシによく似て大形のもので、葉身が斜上するのがセイコノヨシで、県下では加古川から西の海岸に近い湿地に多く生えている。

ヨシもセイコノヨシも地下茎は泥中を横走する。ツルヨシは河原の砂地に生え、地上を匍匐する特徴をもっている。

このヨシ属の栄養器管による区別は、次のようになる。

- A とくに砂地を好み、長い地上匍匐茎を生ず……………ツルヨシ
- A 一般に泥湿地を好み、長い地下匍匐茎を生ず。
- B 小舌膜質部0.3mm、縁辺全体に長毛疎生、葉身表裏および葉鞘表面に軟毛疎生……………セイコノヨシ
- B 小舌膜質部0.5mm、縁辺長毛を生ずるも中央部なく、葉縁部に密生、葉身表裏とも無毛……………ヨシ

ヨシの葉身、葉鞘には幼時に毛が少しみられるが、後には脱落してしまう。大井先生の採集されたケヨシ(尾瀬ヶ原弥四郎小屋近くの湿地産)には葉身、葉鞘とも軟毛を一面に密生したケヨシがある。東北地方を採集旅行した際このケヨシに注意を払ったが見られなかった。ただ下北半島のむつ市浜岡根海岸で比較的軟毛の多く生えたヨシを採集した。

26. ドジョウツナギ属 *Glyceria* R. Br.

本邦にはムツオレグサ、ヒメウキガヤ、ドジョウツナギ、ヒロハノドジョウツナギ、ミヤマドジョウツナギ、カラフトドジョウツナギの6種が分布する。

いずれも湿地に生え、葉身、葉鞘には格子目が認められ、葉鞘は円筒形である。

兵庫県下にはムツオレグサ、ヒメウキガヤ、ヒロハノドジョウツナギ、ドジョウツナギがみられる。

\*笠原安夫：本邦雑草の種類および地理的分布の研究，農学研究 47, 124~140

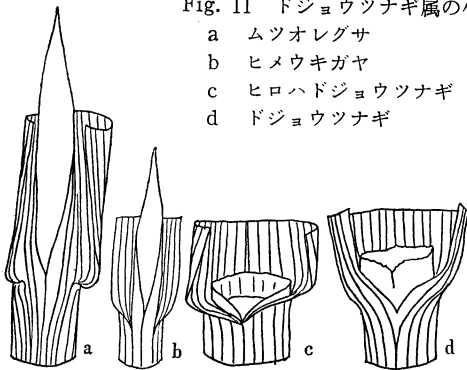
(以下 p. 349より)

これらのうちで水田にはムツオレグサ、ヒメウキガヤが溝などの湿地にドジョウツナギ、ヒロハドジョウツナギが多い。

これらドジョウツナギ属の区別点は次のようである。

Fig. 11 ドジョウツナギ属の小舌

- a ムツオレグサ
- b ヒメウキガヤ
- c ヒロハドジョウツナギ
- d ドジョウツナギ



A 小舌鋭尖形

B 小舌7~12mm, 葉身巾3~5mm……ムツオレグサ

B 小舌4~6mm, 葉身巾2~3mm……ヒメウキガヤ

A 小舌截形

B 小舌2mmより短い。

C 小舌1~2mm, 葉鞘は小舌部で円筒形……………ドジョウツナギ

C 小舌0.8~1mm, 葉鞘は小舌部より20~30mm下で円筒形……………ヒロハドジョウツナギ

B 小舌2mmより長い。

C 小舌2~4mm, 縁辺不齊歯状, 葉鞘は小舌部の下4~10mmで円筒形……………カラフトドジョウツナギ

C 小舌3~4mm, 縁辺契歯状, 葉鞘は小舌部の下10~20mmで円筒形……………ミヤマドジョウツナギ

Fig. 11.

## 続 兵 庫 の 自 然

本会会員篇で昭和35年5月に渋谷・佐藤両氏が編者となり「兵庫の自然」のじぎく版が出版されましたところ、大いに好評を博しました。さらに六月社から、稿を改めて兵庫の自然として出版されましたが、これまた珍しく好評を得ています。

このたび神戸新聞のじぎく文庫から、続兵庫の自然の出版について依頼を受けましたので、会長、理事で、責任編者の依頼、さらに執筆内容の項目など計画を急がねばならなくなりました。

つきましては会員の皆様方で統篇項目について次の条件でご推薦下さい。適当な執筆者、もちろん自薦もお結構です。

(1)学問上面白いこと、(2)県民に知らせたいこと、(3)教育上ぜひ学習させたいことなどについて1月中旬に、室井綽(神戸市長田区寺池町県立兵庫高校生物室)にお知らせ下さいませよう願います。

ただし、既刊の正篇に収録されたものは再録いたしません。なお、兵庫の自然(のじぎく版)は絶版となりましたが、六月社版(兵庫生物学会、20周年記念出版物)は目下売出し中ですので、最寄りの書店あてご注文下さいませよう、願います。(室井綽)